



通所（乳幼児）運動会
＜みんなで記念撮影＞

第十九回 平成二十三年七月一日
発行 東京都立東部療育センター
広報委員会
東京都江東区新砂三-三-二十五

東日本大震災の日から

中村 弘 事務長

三月十一日から四月近くになるうとしていきます。この日は被災された方々はもとより、多くの日本人にとって価値観が一変するような日となりました。重症心身障害児（者）を守る会の会員の方にも被災した方がおいでになり、重症心身障害児施設や医療機関でも多くの困難に遭遇しました。

当センターでは、大きな被害は無く安堵しましたが、続く余震のなかセンターの業務体制の確保など大変なことになったというのが実感でした。交通の乱れる中職員の皆さんも努力し、長時間の勤務や出勤してくれました。その後それぞれ職場での努力と協力があり体制の確保が出来ました。あらためて仕事に対する職員の使命感の強さに感動しました。

震災以降、福島原発の事故と政治の混乱によって社会の不安と混乱が増幅しましたが、今回の震災は電力供給と津波への不安がこれまでの災害と大きく違うところです。幸いにもセンターは計画停電の対象外でしたが都市生活の脆さが露呈しました。今後の計画停電や大規模停電を避けるためにも東部療育センターが積極的に節電をすることによって社会に少しでも協力したい

と思っています。

現在、昨年同様に比べ二〇%ほどの節電を行っています。これから暑さが本格化する時期になりますが、利用者の皆様に出るだけ負担をかけることなく乗り切るよう知恵を絞っていきたくと考えています。電力会社間の電力の融通や古い火力発電施設の再稼働などの対策はとられています。ですが、どれも危うさを持っています。おそらく電力事情が安定するまでに長くかかるのではないのでしょうか。節電を継続していくためには無理の無い対応が必要と考えています。また、津波により多くの犠牲者が出ました。この地域でも津波警報が出ましたが、私も警報を踏まえた対応が出来ませんでした。東京では津波はありませんでしたが多くの反省点が残りました。

余震の続く中、ご家族の方々も心配と不安があったことと思いますが、想定を超える災害にあったとき、ご家族と職員が力を合わせて危機を乗り越えていく必要があります。職員自身が被災して出勤できなくなった時、センターの機能は重大な打撃を受けます。ご家族の皆様にもご協力を頂く必要が出るかもしれません。東日本大震災から多くのことを学び、この体験を忘れず出来る限りの備えをしてまいります。

バスハイク（通所・五月）

五月二十四日にお台場にバスハイクに行ってきました。

お台場へのバスハイクは二回目ということもあり、買い物を楽しむだけではなく「ソニー・エクスプローラサイエンス」という光、音、エンターテインメントを科学するサイエンスミュージアムを見学された方もいました。館内では沖縄美ら海水族館の3D映像があり、3Dメガネをかけたがら迫力の映像を利用者、スタッフ一同目を奪われて鑑賞しました。

買い物を楽しみだしていた利用者様の中には買いたい物が多く、時間いっぱいスタッフと一緒に何軒ものお店を回り少し疲れた表情を見せる方もいました。充実した時間がすごせたようです。ご家族から、とても良い表情をしていたと嬉しいお言葉を頂きました。今後も利用者様の要望を聞きながら、色々な体験や充実した時間が過ぎるよう企画をしていきたいと思っております。

歓迎会（四月）

四月十五日（金）、新しく一名の新通所者を迎え歓迎会が行われました。午前の式典では岩崎副院長をはじめ家族会から歓迎の言葉がありました。通所紹介スライドショーでは昨年の活動を振り返り、新通所者だけでなく出席者全員が通所の楽しい雰囲気を知ることができました。新通所者紹介では、写真と家族からのコメント入りDVDでこれまでの生い立ちなどが紹介されました。

午後からはミニコンサートを行いました。はじめに通所を代表してリハビリグループによるダンスと演奏がありました。この日に向けて練習を重ねてきた利用者様とスタッフが一緒に頑張って演奏してくれました。最後に毎年恒例となった「タンポポ団に入ろう」の曲を利用者様、スタッフ全員で演奏しました。間奏では新通所者の自己紹介もあり最後まで全体で盛り上がりました。

入学式（三階西棟）

かもめ分教室、入学を祝う会

四月七日にブレイルームで「平成二十三年度 かもめ分教室、入学を祝う会」が行われました。今年度は新入生四名（中学部一名、高等部三名）を迎え、緊張した中にも暖かい雰囲気の会になりました。

当日は病棟スタッフや在校生である病棟利用者様も多く参加し、みんな入学をお祝いすることが出来ました。今年度は児童・生徒二十七名、教員十二名のかもめ分教室になりました。どうぞ、よろしくお願いたします。



かもめ分教室 入学を祝う会
（新入生記念撮影）

歓迎会（岩崎副院長の挨拶）



歓迎会
（岩崎副院長の挨拶）

バスハイク（病棟・五月）

今年度の病棟バスハイクの目的は、「環境の変化や楽しい体験を通して、仲間やご家族、職員との交流を深める」です。第一班が五月二十五日にお台場のホテルグランパシフィックにある、レストラン「エルベック」で、美味しいお食事を仲間やご家族と一緒に楽しんできました。

当日は天候にも恵まれ、お出かけ日和でした。レストランでは普段センターの中では感じることでできない雰囲気やお料理にみんなとても良い体験となりました。食事の後は記念写真を撮ったり、周辺を散策したりしました。参加されたみなさんは大満足な一日でした。



お台場海浜公園
自由の女神像を見てきました。



バスハイク（通所）
みんな仲良く記念撮影
（お台場にて撮影）

自慢メニュー

夏に向けて簡単に出来る「水分補給ゼリー」

「水分はトクミをつける」「水分はゼリーで摂るが、外出の際もゼリーを持ち歩きたい」等、水分補給時の要望に合わせて現在多種の製品が市販されています。

暑い夏にはゼリーを凍らせて持ち歩く、一回にパックを食べきれないならリキップ出来るパックタイプの製品を利用すると良いでしょう。出先で購入したペットボトル飲料に直接加えて数十回振ると緩いゼリー状になる「最近発売された」トクミも便利です。

家庭では安全の観点から食べやすい硬さのゼラチンゼリーも望ましいですが、固まるまでには一時間程度を要します。

そこで、近年ビタミンや食物繊維が強化された水や湯を加えて冷やすだけで食べ易いゼリーが出来上がる製品も開発されています。中には三十秒でみるみる固まってしまう物もあります。

（冷凍保存することも可能です。）水をジューズに変えれば様々なフレーバーを楽しむことが出来て、楽しさも演出してくれます。



水分補給ゼリーいろいろ
(種類が豊富)



手作りならばこんな工夫も

ボランティア活動

私達は月に一度、三階南病棟で二胡演奏のボランティアをさせて頂いていただいています。毎回の活動では、五曲ほどの演奏(利用者の皆さんと一緒に歌ったり、手遊びをしながらもしています)に加え、皆さんに二胡を触らせていただく時間も設けています。

「三階南病棟の温かい雰囲気のおかげで私達にとっても楽しい時間となっています。これからも皆さんと充実した時間を共有していきたいと思っております。」

「皆さんに演奏を喜んでいただけて、二胡という楽器の魅力にあらためて気付きます。音楽を好きになれました。どうもありがとうございます。」

（野村）「毎回皆さんが嬉しそうに二胡のりすんにあわせてくださるので、私も演奏が楽しくなります。喜んでくださるのが励みになり、練習にもより身が入るようになりました。」



二胡演奏の様子
(写真左から廣瀬さん、野村さん、石田さん)

花クラブ便り

梅雨も半ば、園庭の木々も花々も夏の用意に入っています。

しとしとと雨はあまり良いものではないのですが、夏前に植物達には貴重な季節です。一昨年からセンターの中庭に、以前は雑草だった区画を花壇へ変えた事で、四季折々に花を築く事が出来るようになりました。今ではキンギョソウ、スカシユリ、鉄砲ゆり、バラなどが咲いています。そして、そしてひまわり、グラディオラスなどが葉を伸ばしています。

昨年は、夏の大きなひまわり、冬の葉牡丹が一番輝いて咲いていました。今年は、春のバラとカスミソウが映えていたように思います。他にも、ピノクの甘い香りのスイトピーや稚児ゆりの可憐な白い花、そして菜の花などが早春の中庭を彩り始めてくれました。

これらの花々は、センターの玄関や職員通用口に、時にはセンターの式典にも切花として生けています。花壇が知られるにつれ、訪れるご父兄から球根などを頂いたり、オータムフェスティバルなどで使用したミニバラなどを植えたりと、丁寧な手入れ管理によって、小さかった花壇は素敵な花園へと変わりつつあります。これから夏に向け、中庭にある東屋の日陰と、小川の清涼が日差しや暑さ

新人紹介

四月より新しく入った藤野看護科長 山本先生、大江先生の紹介をします。

藤野 孝子 看護科長

四月から東部療育センターにお世話になっております。三十年以上、看護経験がありますが、療育に携わるのは初めてです。これまで超急性期の病院で少し疲れ気味でしたが、利用者様の無垢な天使の笑顔に接して癒されている自分を感じています。

少しずつ自分の感受性を磨き、利用者様の目線に立って潤いある生活支援ができるようにスタッフとともに、また他部門の協力を得ながらがんばりたいと思います。よろしくお願ひします。

山本 晃子 先生(小児科)

四月から金沢医科大学病院小児科より東部療育センターにお世話になることとなりました。以前より私は障害をもつ方々に関わる医療をしたいと思っており、その希望をかなえてくださった先生方に深く感謝しています。

このような機会に恵まれたことに感謝し、皆様のご指導のもと日々研鑽を積みみたいと思っております。

足早に桜の季節が終わり、こちらへ来てから一ヶ月が過ぎようとしています。まだ不慣れな私で皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、東部療育センターで、利用者の方々やご家族と笑顔で楽しい時間をたくさん過ごしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひします。

大江 智可子 先生(歯科)

四月より当院歯科診療室にお世話になることになりました。

三月十一日に東日本大震災があり、私を含め誰もがなんとなく落ち着かないなか四月より着任し、早いもので二ヶ月が経ちました。まだまだわからないことが多く、なれないことが沢山あり悪戦苦闘の毎日を送っています。

私は東部療育センターに来る前までは、埼玉県のある福祉施設で通所施設と併設されていた歯科診療室にいました。そこでは通常の歯科治療を行うとともに、時間の合間をみて通所のみならず一緒に作業を行い、いろいろな話をする中で学ぶことが多い日々でした。療育施設ではいろいろな職種の方が働いており、さらに多くのことを学べる場であると思っています。今後とも精一杯がんばっていききたいと思っております。どうぞよろしくお願ひします。

東部あれこれ



通所前に咲いた鉄砲ゆり

を和らげてくれます。水のたまり口に睡蓮を植えておきました。ぜひ、お時間を作り、散歩においで下さい。

今年の四月から六月にかけて当センターで行われた行事等について紹介いたします。

【四月】

一日の新規職員の採用辞令交付式に始まり、採用者に対するオリエンテーション、かもめ分教室の入学式、通所の入園式など、四月は新たなセンター活動が動き出す活気あふれる季節です。

【五月】

十二日に通所、十四日に入所の家族懇談会が開かれました。懇談会には外部から二名の第三者委員も出席し、日頃からご家族が気にかけていることや、センターの運営について質疑、応答が行われました。今年は三月に発生した震災の影響で、災害に対するセンターの対応に質問が多く寄せられました。

編集後記

四月の桜、五月の新緑と季節が移り、今年は例年より早く梅雨の季節となりました。

梅雨は何かと憂鬱な感じが強いですが、一方で草花は生き生きと成長しています。

「わか草」の記事が思うように書けない時は、センター中庭の草・花・木を眺め、気分転換を図っています。